



2013 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦
鈴鹿2&4レース

TOHO Racing with MORIWAKIレースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

4月13日(土曜日) 天候:晴れ 路面:ドライ
公式予選/2'08"825 7番手
4月14日(日曜日) 天候:薄曇り 路面:ドライ
決勝/7位(15周)
開催地:三重県・鈴鹿サーキット
入場者数:50,000人(土・日合計)

開幕戦から2週間後に行われた第2戦鈴鹿2&4レース。スーパーフォーミュラと併催で行われ、国内最高峰の2輪、4輪が一度に見られる伝統のレースだ。鈴鹿8耐前に行われる唯一の全日本格式のレースでもあり55台ものエントリーを集めた。TOHO Racing with MORIWAKIも今回のレースでベストを尽くすことは、もちろん鈴鹿8耐を見据えた戦いとして位置付けていた。週末は、やや風が冷たかったものの天候に恵まれたこともあり、多くのお客さんがサーキットを訪れた。

レースウィーク初日となった金曜日。1本目のセッション開始直後にアクシデントが襲う。コースインした直後はタイヤ、マシンの挙動などを確認。特に山口は慎重なライダーなのだが最終コーナーでハイサイド転倒してしまう。何とかピットに戻った山口は、傷ついたレーシングスーツを着替えスペアマシンで出ていくが、左足首を痛めており初日はムリせずに終える。メカニックは、メインマシンを完璧に修復、初日のデータ、今までのデータを元に山口がライディングしやすいセットを施し公式予選に備える。





2013 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦
鈴鹿2&4レース
TOHO Racing with MORIWAKIレースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

土曜日の公式予選は、台数が多いため2グループに分かれ35分1セッションの計時予選で行われ、山口はAグループでの出走となった。短い時間の中、チームはマシンを少しでもいい状態にしようとライダーのコメントを聞き迅速に動いていく。セッション終盤にタイムアタックに入った山口は、2分08秒825をマークしAグループで4番手、予選総合で7番手につけた。

決勝日は、朝から快晴となり気温が上がる予報が出ていた。しかし、実際の最高気温は15度までしか上がらず路面温度も32度前後にとどまっていた。

15周で争われた決勝レース。山口は、好スタートを見せ5番手で1コーナーに入るが、2コーナーで目の前の加賀山選手が振られ、その影響で津田選手に前に行かれ7番手に落ちてしまう。しかし、ヘアピンで加賀山選手のインに入り6番手に浮上しオープングラップを終える。マシンのフィーリングもよく、さらに前を狙ってきたいところだったが、後方で多重クラッシュが発生。パーツがコース上に出てしまったためにセーフティーカーが入る。セーフティーカーは、5周までという長い間コース上に留まり残り10周でリスタートが切られる。1コーナーで加賀山選手に、ヘアピン立ち上がりで渡辺選手にかわされ8番手下がってしまう。セーフティーカーが入ったことでタイヤが冷えてしまい、マシンのバランスが崩れてしまっていた。それでも必死にタイヤを暖め、渡辺選手と抜きつ抜かれつのバトルを展開。この様子は、サーキットビジョンに映し出され約3万人のファンが注目した。結局、このバトルは、渡辺選手が2輪シケインで転倒し終止符が打たれる。単独走行となった山口は、7位でチェッカーを受け14ポイントを加算した。



2013 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦

鈴鹿2&4レース

TOHO Racing with MORIWAKIレースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

ライダー 山口 辰也コメント

「今回はレースウィークを通して流れが悪かったですね。スタートは、うまく決まってタイヤのフィーリングもすごくよかったですのですが、セーフティーカーが入ったことでタイヤが冷えてしまいバランスが崩れてしまいました。リスタートした後は、ムリが効かない状況だったので遅いペースでしか走れませんでしたね。その中でも収穫があったので、次回以降に活かして行きたいです。今回は初日に転倒してケガをしてしまったので厳しかったです。オートポリス、筑波と得意なコースが続くので、巻き返して行きたいですね」

チーフメカニック/戸井田 剛コメント

「初日に転倒がありライダーが負傷してしまったため厳しいレースになりましたね。当初は、2分06秒台を視野に入れていましたが、ライダーの体調を始め、路面のコンディションや予選時間の短さもあり、なかなか思うようにタイムを詰めることができず難しい状況でした。レースでは、スタート直後はよかったのですが、セーフティーカーが長く入ったことで想定していたペースで走ることができなかったのが悔しいですね」

監督 齊藤 博士コメント

「初日のセッション開始直後に転倒してしまったことで、リズムを崩してしまったのが大きかったですね。山口自身、転倒が少ないライダーなので珍しいことでした。メインマシンがダメージを受けてしまったので、セットアップなど、やらなければいけない項目が遅れてしまっていました。ライダーもダメージを受けていましたが、最後まで頑張ってくれたと思います。鈴鹿8耐に向けたデータも取れましたし、今回経験したことを活かして、もっと上を目指します」

